神楽記

折口信夫

青空文庫

神楽と言ふ名は、近代では、神事に関した音楽舞踊の類を、漠然とさす語のやうに考へてゐる。さう言ふ広い用語例に当るものとして、神遊(カムアソ)びと言ふ語があつたのである。一体日本古代の遊びとか舞ひとか言はれるものには、鎮魂の意義が含まれてゐる。「神遊」は、神聖な鎮魂舞踊とか、或は神自ら行ふ舞踊(アソビ)とか言ふ意味らしいのである。其神遊びの一種として、平安朝の中頃から宮廷に行はれ始めたのが神楽で、最初は「琴歌神宴」と称して、大嘗祭の一部分の、夜の行事から出たと言ふ説が、有力になつてゐる。

通説には、天岩戸の神出現に先立つて、天鈿女命の舞踊したのが起源だといふ事になつてゐるが、此は神楽よりも古い鎮魂祭の初めを説くものと思はれる。

恐らく宮廷以外の神社で発達したものが、天子を祝福する意味から、宮廷年中行事の一つに入りこんだものと思はれる。其にも順序があつて、最初に豊楽殿(ブラクデン)の清暑堂(セイショダウ)に行はれたのが、後、内侍所にも行はれることになつたらしい。天子の御為にするのであつた事は、庭上で之を奏してゐる間、御座に出御になつてゐた事からも察せられる。主要な楽器は琴で、之に笛・篳篥が伴つてゐる。歌は本方(モトカタ)・末方(スエカタ)に分れて、所謂「掛け合ひ」の様式で謡ふのである。舞ひは、此神態(カミワザ)の長(フサ)と言ふ風に解せられてゐる人長(ニンヂャウ)がするので、其も主として、初めの「採物(トリモノ)」に行はれる。採物は、其一つ〳〵が、此鎮魂呪術に用ゐる呪具だつたのだらう。其を携へて出て舞ふと、歌が之に伴ふ。之がすんで後、数回の勧盃(ケンパイ)がある。其間に古来のと今様のと、民謡に唐楽風の節をつけた、当時の歌謡曲の様なものが謡はれた。此が大前張(オホサイバリ)・小前張(コサイバリ)である。其後は「朝歌」とも言ふべき星の歌・星の呪文・朝倉などがあつて、昼目(ヒルメ)・其駒(ソノコマ)などを含む雑歌でをさめることになつて居る。正式に之を行へば、宵から夜明けまで夜を徹したものだが、曲目も殖えて次第に其を本格的に行ふことが出来ず、時々の選択を加へて、抜きさしするやうにもなつたと見える。

神楽の主要部は、やはり採物にあるので、其後で、鎮魂を行つた慰労として出る酒を頂く。謝意を表する為の芸廻しとも言ふべきものが、其々の才技(サイ)で召された男たちによつて行はれ、其後なごり惜しみして別れて行く。其朝の部に属するものが分化して、「雑歌(ザフノウタ)」を生じたと言ふことになるのであらう。今度催される「其駒」なども、雑歌のをさめに謡ふことになつてゐた。朝の神あげで還つて行かれる神に別れを惜しむやうな感情が、此部の歌には全体として現れてゐるのだが、朝は日神が来臨するのに、之になごり惜しみすることの矛盾を感じて、こゝで一しきり悲別とも讃歎ともつかぬ歌群が出来た訣である。「さゝのくま　ひのくま川に駒とめて（昼目）」と「其駒ぞや　我に草こふ」とを比べて見ても、同じ目的の分化したことは窺はれるのである。

神楽が宮廷に栄えて後、宮廷以外の地方の社で行ふものを、里神楽(サトカグラ)、夏の祓(ハラ)へに関聯した舞踊を夏神楽、伊勢国の片田舎で発達したのが、神宮直属のものゝ様に僭称して、病気災厄の祓へをして廻つたのが、伊勢神楽と言ふやうに、神楽と言ふ称へが、圧倒的な勢力を、神事舞踊の上に持つて来るやうになるのである。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集　21」中央公論社
　　1996（平成8）年11月10日初版発行
底本の親本：「折口信夫全集　第十七巻」中央公論社
　　1967（昭和42）年3月25日発行
初出：「実演による日本舞踊史の展望　プログラム」
　　1949（昭和24）年7月発行
※底本の題名の下に書かれている「昭和二十四年七月「実演による日本舞踊史の展望プログラム」」はファイル末の「初出」欄に移しました。
入力：門田裕志
校正：フクポー
2018年4月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

神楽記

折口信夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/